

2024（令和 6）年度授業実施方針の検証結果（前期分）

1. 趣旨

2023 年度から、主体的に学ぶ力を育成する自己調整学習の促進と学修成果の可視化を目指し、授業レベルの質保証の指針となる授業実施方針と具体策を以下のとおり明示している。

趣旨：主体的に学ぶ力を育成する自己調整学習の促進と学修成果の可視化に取り組む

基本的考え方	具体策
①「対面授業」を基本とし、双方向性の確保と学びのコミュニティの形成・維持を図る。	対面授業の実施割合：90%以上
②主体的に学ぶ力の育成に資するアクティブ・ラーニング型授業をさらに充実させ、協働的な学びを深める。	シラバス上のAL型授業実施割合：80%以上
③BYOD環境を積極的に活用し、ICTを利用することで双方向性の拡大と、個別最適な学びへの対応を図る。	・FIT-AIM、チャットやクリッカーなどでの意見表明と対応するフィードバック ・授業動画などのコンテンツを有効に活用した授業外学習（予習、復習、反転授業の事前学習）
④学修成果（個々の授業回、授業全体を通じての成績）の可視化および学生へのフィードバックを進め、学生の自己調整学習の促進につなげる。	テストやレポートの返却、授業での解説等の実施

【授業での取り組み全体に対する達成度指標】

●授業外学修時間の伸長（前年増） ●累積 GPA の向上（全学の第 3 四分位値前年増）

2. 成果の検証

授業実施の基本的考え方および授業での取り組み全体に関する達成度指標について、2024 年度前期の達成状況は、以下の通りである。

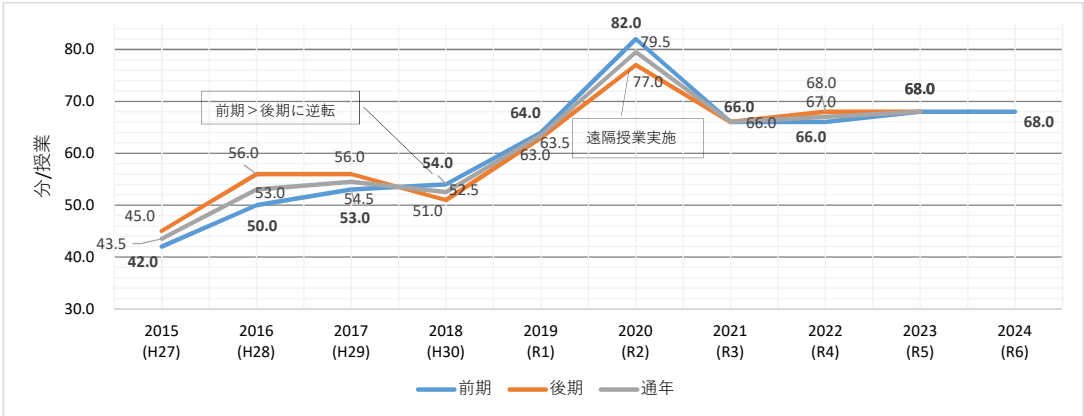
項目	達成状況	分析と対応
①対面授業の実施割合	99%以上	○ 2024 年度の遠隔授業は「AI データサイエンス基礎」のみ。授業での学生へのフィードバック（テストやレポートの返却等）の実施状況について状況の把握が必要。
②シラバス上の AL 型授業実施割合	71.7%（2024/5/15 時点） ※前年 70.1%	✕ 2024/5/15 時点着任年度別の AL 実施状況は 2024 年度着任教員 87.5%（2023 年度着任教員 76.5%、2022 年度着任教員 66.7%）と、2024 年度着任教員への働きかけが奏功している。
③FIT-AIM 利用状況	全体入力率：63.8% （2024 年度前期） ※2023 年度 59.6%	△ 昨年度前期は 1 年生（前年度同期比＋0.9%）を除き減少したが、全体的に一昨年度並みの比率に回復している。
④授業外学修時間の伸長（前年増）	学生単位の授業外学修時間 10.0 時間／週（前期） ※前年 9.9 時間／週（前期）	○ 引き続き漸増傾向である。
⑤累積 GPA の向上（全学の第 3 四分位値前年増）	（年度末に集計予定）	—

授業外学修時間推移 2015(H27)年度～2024(R6)年度前期

【授業単位の授業外学修時間】

(分/授業)

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
前期	42.0	50.0	53.0	54.0	64.0	82.0	66.0	66.0	68.0	68.0
後期	45.0	56.0	56.0	51.0	63.0	77.0	66.0	68.0	68.0	
通年	43.5	53.0	54.5	52.5	63.5	79.5	66.0	67.0	68.0	

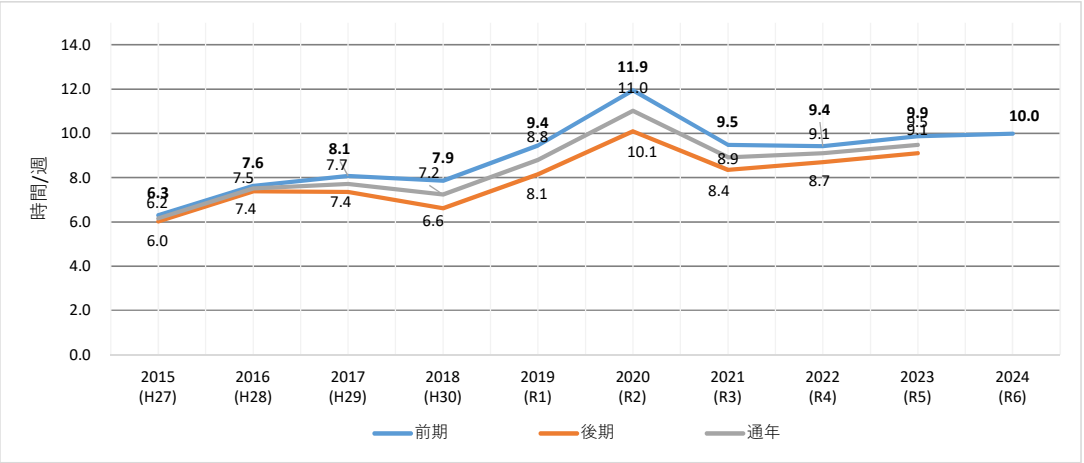


【学生単位の授業外学修時間】

(時間/週)

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
前期	6.3	7.6	8.1	7.9	9.4	11.9	9.5	9.4	9.9	10.0
後期	6.0	7.4	7.4	6.6	8.1	10.1	8.4	8.7	9.1	
通年	6.2	7.5	7.7	7.2	8.8	11.0	8.9	9.1	9.5	

1授業あたりの「学習時間平均」× 1人当たりの授業受講数



FIT-AIM「授業の振り返り」利用状況（2024(R6)年度前期 2024/08/20現在）

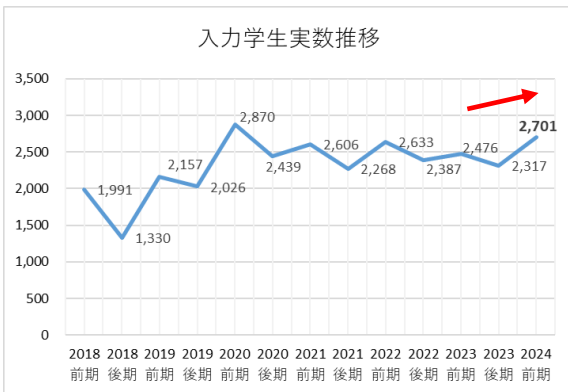
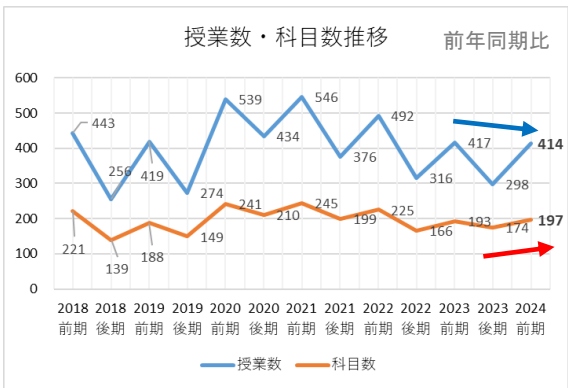
【入力授業数・科目数・入力件数・入力学生実数】

科目属性		授業数	科目数	入力件数	入力学生実数 ※	1学生あたり平均入力件数
専門	電子	42	26	8,341	273	30.6
	生命	13	10	348	10	34.8
	機械	27	18	4,661	359	13.0
	電気	26	18	2,640	265	10.0
	情報	29	11	676	35	19.3
	通信	24	16	152	38	4.0
	システム	18	9	94	10	9.4
	情報マナ	19	19	2,309	158	14.6
	社環	61	40	18,126	581	31.2
	小計	259	167	37,347	1,729	21.6
教養等		155	30	28,799	1,886	15.3
合計		414	197	66,146	2,701	24.5

※ 専門・教養の各欄は、各科目属性における入力学生実数。

専門小計欄は、全専門科目における入力学生実数。合計欄は、全科目における入力学生実数。

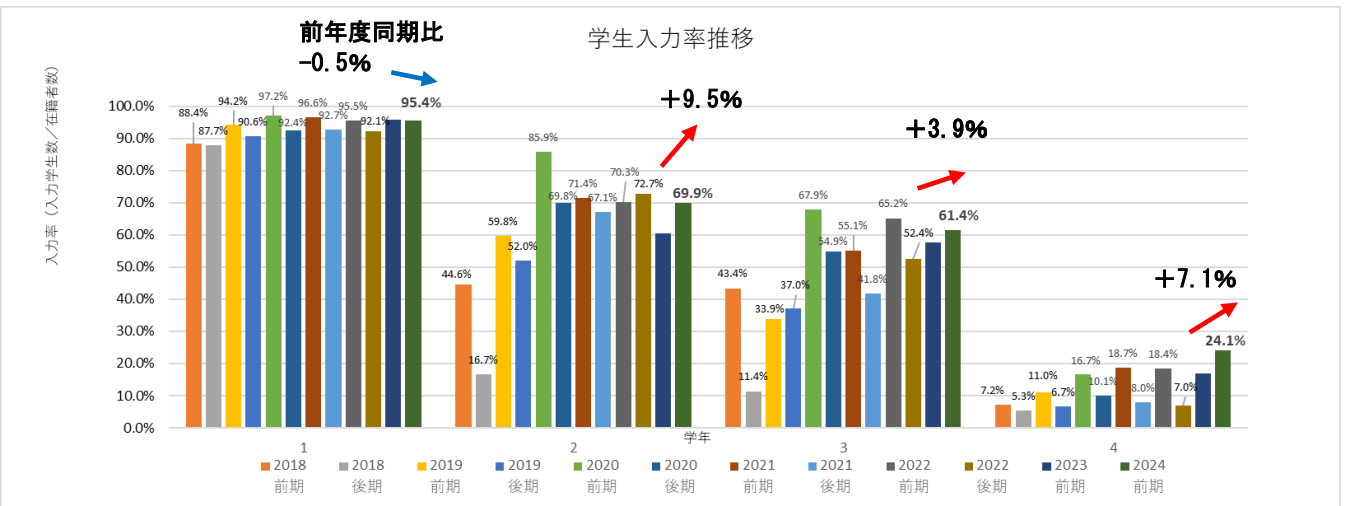
	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期
授業数	443	256	419	274	539	434	546	376	492	316	417	298	414
科目数	221	139	188	149	241	210	245	199	225	166	193	174	197
入力件数	34,795	19,625	59,440	41,439	119,392	74,151	78,101	48,366	70,117	51,645	59,742	50,776	66,146
入力学生実数	1,991	1,330	2,157	2,026	2,870	2,439	2,606	2,268	2,633	2,387	2,476	2,317	2,701



- ・利用状況は学科ごとに大きく異なっている。
- ・コロナ禍をピークに「授業数」「入力件数」「入力学生実数」の減少傾向が続いていたが、前年度同期比で入力件数や入力学生実数に増加が見られる。
- ・「学生入力率」（次項）は、昨年度前期は1年生（前年度同期比+0.9%）を除き減少したが、全体的に一昨年度並みの比率に回復（全体入力率：2022年度前期63.2%→2023年度59.6%→2024年度前期63.8%）が見られる。

【入力学生実数内訳】

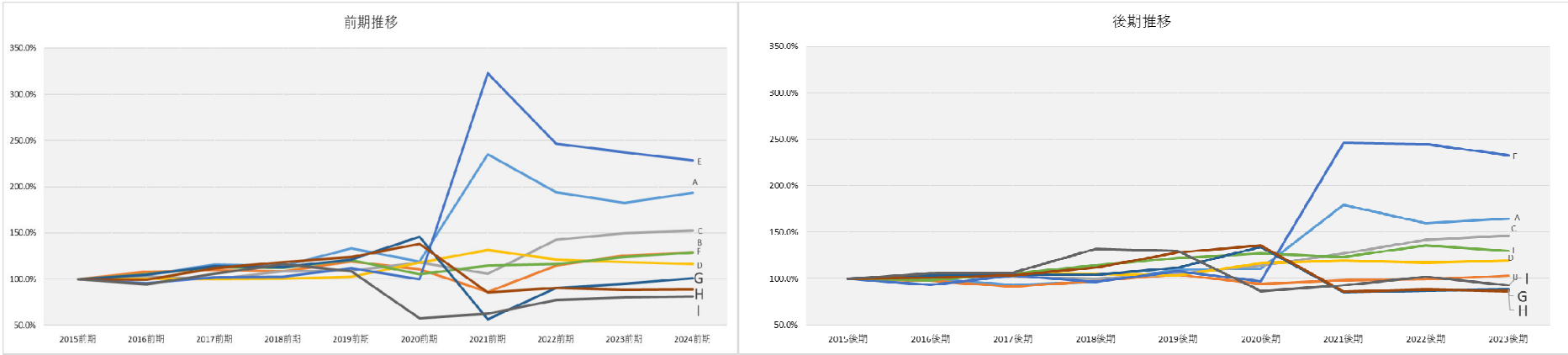
学科	年次	入力学生 実数	在籍者数 (5/1付)	入力率	2023年度 前期比	学科	年次	入力学生 実数	在籍者数 (5/1付)	入力率	2023年度 前期比
電子	1	108	115	93.9%	-0.1%	情報	1	149	150	99.3%	-0.7%
	2	105	111	94.6%	-3.3%		2	74	154	48.1%	+34.3%
	3	66	89	74.2%	-2.6%		3	54	157	34.4%	+12.6%
	4	14	90	15.6%	+5.6%		4	9	131	6.9%	+0.7%
	計	293	405	72.3%	-1.3%		計	286	592	48.3%	+13.3%
生命	1	113	125	90.4%	-3.1%	通信	1	101	104	97.1%	-1.9%
	2	32	99	32.3%	+0.6%		2	43	114	37.7%	+18.5%
	3	21	97	21.6%	+17.6%		3	31	89	34.8%	+6.4%
	4	12	95	12.6%	+9.2%		4	19	115	16.5%	+6.6%
	計	178	416	42.8%	+7.7%		計	194	422	46.0%	+6.7%
機械	1	115	120	95.8%	+2.5%	システム	1	99	102	97.1%	+0.9%
	2	122	131	93.1%	+9.9%		2	41	105	39.0%	+9.7%
	3	127	134	94.8%	+0.5%		3	23	109	21.1%	+1.1%
	4	38	122	31.1%	+4.5%		4	7	93	7.5%	-5.4%
	計	402	507	79.3%	+2.0%		計	170	409	41.6%	+1.4%
電気	1	108	121	89.3%	-2.0%	シスマネ	1	101	103	98.1%	-1.9%
	2	89	97	91.8%	+5.3%		2	75	82	91.5%	+0.9%
	3	69	94	73.4%	+8.0%		3	75	79	94.9%	-3.7%
	4	54	118	45.8%	+23.2%		4	10	69	14.5%	-0.2%
	計	320	430	74.4%	+3.0%		計	261	333	78.4%	+0.7%
						社環	1	189	195	96.9%	+0.5%
							2	170	181	93.9%	-2.5%
							3	158	169	93.5%	-0.5%
							4	80	176	45.5%	+9.0%
							計	597	721	82.8%	+0.7%
						全体	1	1,083	1,135	95.4%	-0.5%
							2	751	1,074	69.9%	+9.5%
							3	624	1,017	61.4%	+3.9%
							4	243	1,009	24.1%	+7.1%
							計	2,701	4,235	63.8%	+4.2%



授業アンケート「設問5」 学生が「実際に伸びたと実感できた力」（DP要素）の経年変化(2015(H27)年度～2024(R6)年度)

2015(H27)前期・後期の各期回答率を100%としてみた各年度同期回答率の経年変化

	2015前期	2016前期	2017前期	2018前期	2019前期	2020前期	2021前期	2022前期	2023前期	2024前期		2015後期	2016後期	2017後期	2018後期	2019後期	2020後期	2021後期	2022後期	2023後期
A	100.0%	104.9%	115.8%	113.9%	133.4%	118.8%	234.9%	193.9%	182.5%	193.2%	A	100.0%	99.6%	93.4%	96.6%	109.5%	110.5%	179.3%	160.0%	164.7%
B	100.0%	108.0%	109.7%	108.5%	119.0%	110.9%	86.1%	114.5%	125.4%	128.8%	B	100.0%	97.7%	91.1%	97.6%	104.3%	94.0%	98.2%	99.4%	102.8%
C	100.0%	102.9%	100.0%	108.5%	108.9%	117.8%	106.0%	142.3%	149.6%	152.3%	C	100.0%	100.2%	101.7%	99.9%	105.0%	113.8%	126.9%	141.9%	146.4%
D	100.0%	100.1%	100.0%	100.3%	102.6%	117.8%	131.7%	121.3%	118.2%	116.3%	D	100.0%	101.7%	105.6%	105.3%	103.7%	116.8%	119.2%	117.4%	119.3%
E	100.0%	95.5%	101.9%	102.6%	111.8%	99.9%	323.0%	246.4%	237.3%	228.4%	E	100.0%	93.1%	102.8%	96.5%	107.7%	97.3%	246.1%	244.7%	233.0%
F	100.0%	105.5%	113.0%	112.2%	120.5%	105.4%	114.4%	116.0%	124.1%	129.0%	F	100.0%	98.3%	105.3%	114.5%	122.1%	127.0%	123.5%	135.8%	129.8%
G	100.0%	104.5%	114.3%	113.0%	120.9%	145.9%	56.6%	90.4%	94.6%	100.7%	G	100.0%	103.8%	104.2%	104.4%	111.5%	134.0%	85.5%	87.5%	88.4%
H	100.0%	99.4%	111.7%	118.2%	123.9%	138.3%	85.8%	90.6%	88.4%	89.1%	H	100.0%	100.7%	103.5%	111.8%	127.9%	136.0%	86.2%	88.2%	86.7%
I	100.0%	94.4%	105.7%	116.3%	108.5%	57.5%	62.7%	77.1%	80.0%	81.3%	I	100.0%	105.9%	106.4%	131.8%	129.7%	86.6%	92.9%	101.8%	92.7%

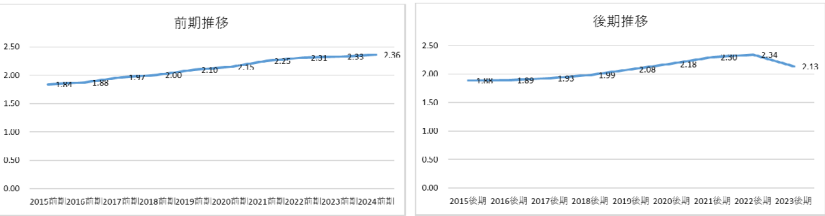


設問5.この授業を通じて実際に伸ばすことができたと実感している『力』は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。

【選択項目】

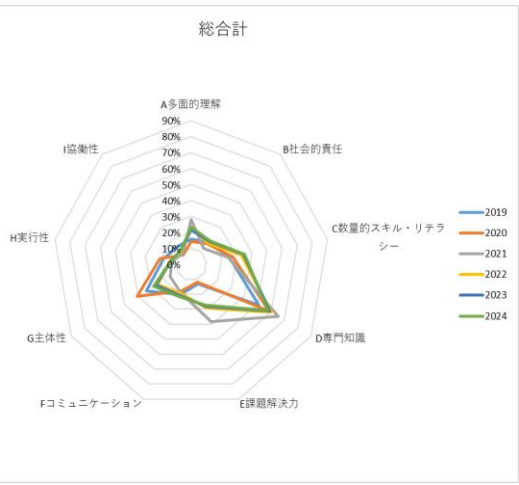
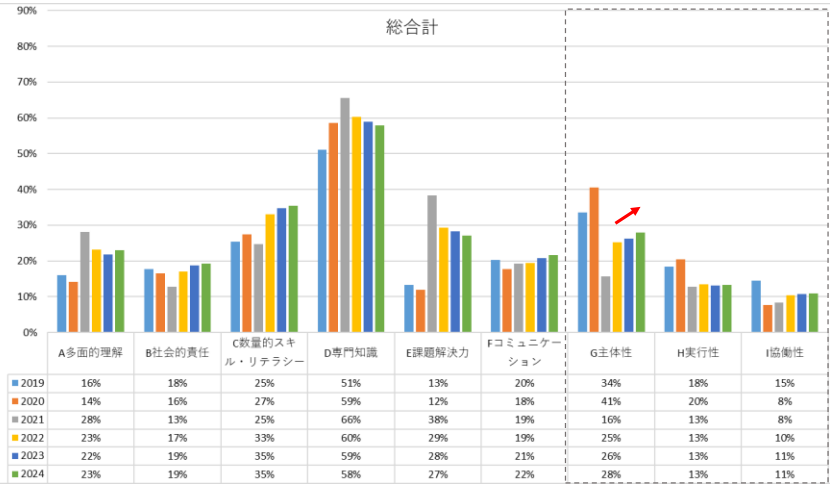
	2021(R3)年度前期	2021(R3)年度後期 ※
A	多面的理解	多面的理解：地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養
B	社会的責任	社会的責任：技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、社会に対して負う責任の理解
C	数量的スキル・リテラシー	数量的スキル・リテラシー：数学及び自然科学（人文社会科学）の知識と応用能力
D	専門知識	専門知識：当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力
E	課題解決力	課題解決力：科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するデザイン能力
F	コミュニケーション	コミュニケーション：論理的な記述、口頭発表、討議等のコミュニケーション能力
G	主体性	主体性：自主的、継続的に学習する能力
H	実行性	実行性：与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力
I	協働性	協働性：チームで仕事をするための能力

DP平均回答個数



授業アンケート「設問5」 学生が「実際に伸びたと実感できた力」 （DP要素）の経年変化(2019(R1)年度～2024(R6)年度：前期のみ)

各学科・教養力育成科目の回答人数に対する、授業を通じて実際に伸ばすことができた力(A～Iのうち3つまで選択可) と回答した人数の割合の経年変化（前期）



・全体としてG（主体性）・H（実行性）・I（協働性）は、コロナ禍により授業実施形態に大きな影響を受けた2021年度前期・後期において大きな落ち込みが見られたが、対面講義が全面的に回復したことで、2022年度以降は回復基調が見られる。ただし、学科・教養力育成科目群別にみると、2021年度以降、継続して減少傾向が見られるところもあり、カリキュラムや授業実施手法など、その背景の検証と改善が求められる。

・全体としてD（専門的知識）とE（課題解決力）は2021年度がピークとなっている。またEについては、2022年度に減少が見られるものの、2020年度以前と比較して高止まりの状態にある。また、この傾向は全学科・教養力育成科目群で確認できる。

・F（コミュニケーション）については、社会環境学科および教養力育成科目において成長実感があると回答した割合が高いが、情報システム工学科および情報マネジメント学科も比較的高い回答率を示している。

